

地域間の垣根ないまちへ

甲良民報

2012年1月22日 500号
発行責任：日本共産党甲良町支部
Tel.Fax38-4949

町行政による「同和」「一般」の垣根を一日も早くなくしたい、と願って丸山みつお議員が12月議会において一般質問の冒頭で述べた一節の要旨を紹介します。

私が町民のみなさんのご支援で、議員にならしていただいてから、7ヶ月あまり、はじめての経験ばかりでした。甲良町議会の決定で、町政全体、予算の使い方、運営の方向などが決められていくという、責任の重大性を感じたことが、何よりも新鮮な印象でした。

私は、この機会に、甲良町が長年、かかえてきた懸案の問題、いや、町民のつよい願いと言つてもいいでしょう、同和問題解決のため、行政は何をなすべきか。ほんの基本を、ごくさわりですが述べさせていただきます。

地域にこだわらない 世代のひろがり

私の子どもたちの年代は、もはや、同和地区とか、一般地区とかの区別をしない考え方がひろがり、そのことを特別な問題とすることがいらぬ人間関係・社会のなかで、自由に生活しています。私も若い時から東京で働き、世帯を持ち、そのことに、こだわらない生き方をしてきたつもりです。地域全体の生活環境が、まわりと比べて、おくれた状態だったことは事実です。しかし、かといって、一般地区の人々が、悪いのだとか、一般地区の人間に責任があるのだ、と思つたことは一度もありません。

国民・町民の融合を 妨げる解放同盟の運動

部落問題を勉強する内に、部落解放同盟の理論のうち、「部落外の人間は全て差別者だ」という考え方が彼らの運動の基本になつていくことを知り、部落解放同盟幹部の数々の利権あさりを見るにつけ、こんなことをしていいでは、信頼もされないし、町民との融合がいつになつてもできないなあ、と思つようになりませんでした。

ましてや、甲良町行政が下水道の負担金の差をつくることや、固定資産税の減免を続けることなど、解放同盟の言いなりで、主体性

を持たないことは、根本的に間違いだと思ひます。

先ほども言いましたように、地域の垣根にこだわらない現代、私たちのくらしが広がってきています。

日本共産党の三つの提案

私たちの党では、一つに、くらし応援、福祉・医療・教育などの充実を地域の区別なくすすめる「貧困と格差の拡大」をやわらげること。二つ目に、部落解放同盟の横暴・利権あさりを厳しくしりぞけること。三つ目に、特別施策を早期に終了すること。この3点を提案しています。

北川町政にあつては、同対事業を進める根拠となる法律が終了して7年が経過していることから、また特別な地域に特別な優遇を行う必要がなくなつている今、同和行政で生じたマイナスの面を改善されるよう、公正な後始末、と言えはいいでしょうか、このことをつよく望みたいと思います。

町民の信頼回復を

また、町職員が地方公務員法の定めにあるところの「全体の奉仕者」に反した行為を行った場合には、北川町長はきつちりと正す指導をおこなつていただき、町政全般に対する町民の信頼を回復させることが重要だと考えます。

(見出しは編集者による。)

議会広報にも同主旨が掲載されています)

西沢議員と丸山みつお議員は、

みなさんと力を合わせ

「願い」実現をめざします

国保税・介護保険料を引き下げます
中学卒業まで通院医療費も無料にします
出産時の「祝い金」制度をもつけます
住宅リフォーム制度を拡充し、

地元建設業者の仕事おこしを